

錦江町立大根占小学校 第4学年

【授業実践のポイント】

- ① 児童が主体的に考え、議論するために、ねらいを明確にし、道徳的価値に基づいた発問の工夫を行った。(発問マトリクス, 思考ツール, 話合いカードの活用)
- ② 自己の生き方についての理解を深めるために、振り返りの工夫を行った。(テキストマイニングツールの活用, 道徳コーナーの設置, 振り返りの観点や蓄積)

1 主題名 「きっぱりことわる」[A - (1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任]

(1) 教材名 「さち子のえがお」(日本文教出版「生きる力4」)

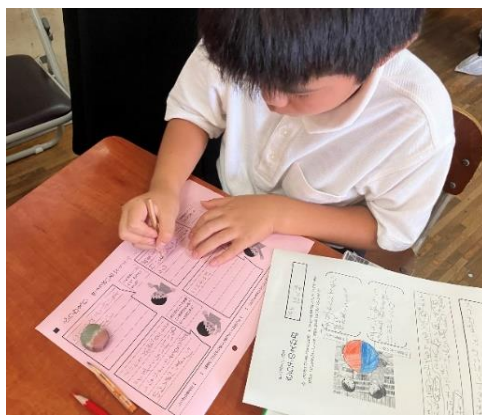
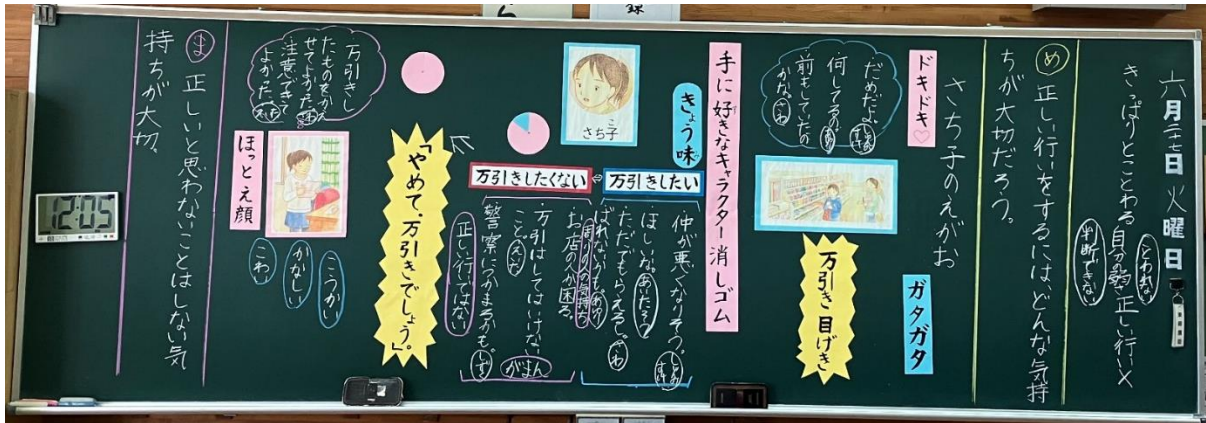
(2) 本時のねらい

その場の状況や自分の興味などに流されず、自信をもって正しいと判断したことは正しい、正しくないとは判断したことは行わないことのすがすがしさに気づき、よいと思うことを進んで行おうとする心情を養う。

2 授業の展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
気付く	1 アンケートの結果を基に、考えていきたい問題に気付く。 2 本時のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">正しい行いをするには、どんな気持ちが大切だろう。</div>	↑ 5分 ↓	○ 一人一人に問題意識をもたせるために、正しい行いではないと分かっているにもかかわらず、ついしてしまう自分の心の弱さに着目させる。 【テキストマイニングツールの活用】
さぐる・見つける	3 教材を読んで、主人公の気持ちを考え話し合う。 (1) ユミの万引きを見たとき (2) ユミに万引きに誘われたとき T:ユミから万引きに誘われたさち子はどう思っただろう。 (共感的発問) (3) ユミから手紙をもらったとき T:ユミから手紙をもらったさち子はどう思っただろう。 (共感的発問) 4 正しい行いをするには、どんな気持ちが大切か考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">正しいと思わないことはしない気持ちが大切</div>	↑ 33分 ↓	○ 主人公の揺れ動く感情を自分事として捉えさせるため「万引きをした」「万引きをしたくない」の両方の立場から気持ちを考えさせる。 【思考ツールの活用】 ○ 考えを広げたり深めたりさせるために、自分の考えを友達に伝えたり友達の考えを聞いたりさせる。 【話合いカードの活用】 ○ 正しくないとは判断したことを行わないことのすがすがしさに気付かせるために、共感的発問をし、心の葛藤や心の弱さに勝ったときの気持ちを十分に考えさせる。 【発問マトリクスの活用】
深める・あたためる	5 今日の学習を通して、感じたことを振り返る。 6 教師の話聞く。	↑ 7分 ↓	○ ねらいに基づいた振り返りをさせるために、「これまでの自分」「友達のことを聞いて」「学習したこと」「これからの自分」という4つの観点を示し、振り返らせる。 【振り返りカードの工夫】 【ファイルで振り返りカードを蓄積】

〈板書〉



〈話し合い〉
意見の伝え合いだけでなく、互いに考えを広げるため、問いかけカードを活用している。

〈思考ツールと振り返り〉
登場人物の心の葛藤や変化を心情円を使って考えている。
そして、教材で学習したことを基に、観点に沿って道徳的価値に対する振り返りを行っている。

〈道徳コーナー〉
学習したことを振り返られるように、板書と振り返りを教室後方に常時掲示している。

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア 発問マトリクスや問いかけカードを活用することで、自分事として捉え自他の考えを明確にしたり広げたりすることができた。
- イ 思考ツール（心情円）を取り入れることで、児童が登場人物の心の葛藤や変化をどのように捉えているのかが分かり、話し合いや考えを深めることにつながった。

(2) 課題

- ア 児童同士での話し合いや学びをより深めていけるようにするため、教師と児童とのやりとりの中に、問いかけカードの言葉を取り入れ、問いかけの仕方を身に付けさせていきたい。
- イ 授業で学んだ道徳的価値を授業の中や学校の中だけで終わらせるのではなく、日常生活の中でも、常に自分自身に問い続ける児童を育てていきたい。